

足利風 -ashikaga-fu

2021
2月号
Vol.72



絵手紙：齋藤 博

足利市民活動センター

開館時間：平日 10:00~19:00

休館日：土・日・祝日・第3月曜日

〒326-0052

栃木県足利市相生町1-1

足利市生涯学習センター3F

TEL 0284 (44) 7311

FAX 0284 (44) 7312

Mail info@shimin-act.jp

HP <http://www.shimin-act.jp>

HP QR コード



☆ ご案内 ☆

- *特集!
- *TOPICS
- *私のボランティアことはじめ
- *サークル紹介
- *インフォメーション

* わけ入ってもわけ入っても青い山 *

いま、コロナ・ウィルス禍の時代の先にある社会は、これまでのマネー資本主義に代わって、“里山資本主義”（造語）の時代が来る、と地域現場の声をくみ上げ、各種提言をしている日本総研エコノミスト・藻谷浩介が言っている。“里山資本主義”とは、農山漁村に限らず都会でもどこでも実現できる“里山”的な資本主義のことだ。「多様なものが共生し、循環再生が健全になされているような社会」を支える経済思想である。「ヒ



ト・モノ・カネ・情報が、使いつぶされず、淀まずに、循環し、再生され、次世代に続いていく社会」と言い換えても良い。また、里山資本主義では原発のコスト高をも科学的に分析している。

“里山”は古代から数々の漂泊者たちを生み育んできた。西行であり芭蕉であり、山頭火～わけ入ってもわけ入っても青い山・・・である。山頭火が慕っていた俳人が伊那路にいる。（井上）井月～やっとかなった墓参の時の一句「お墓したしくお酒をそそぐ」。～井月（せいげつ）という漂泊の俳人がいる。幕末から明治にかけて、どこからともなくやって来て伊那谷を30年放浪した。地元の人たちが「ほかいびと（寿・祝言、乞食）伊那の井月」という映画を製作した。3. 1 1 東日本大震災を機に、失ってきた人の絆・共同体の再構築を問う映画だ。

“所有”することに価値を置いたこの時代を問い直すために、一切を捨てて“無所有”を生きたい。井月は、身命を山野に預け、居住を風雲にまかせ、身に一塵をも貯えず、一杖一鉢の放浪に、命を結んで生きた。日本の文化を育んできた母なる自然が、原発汚染で侵され、敵対するものになろうとしている今、私たちは、連綿と培ってきた日本の精神的世界の鉤脈を、もう一度再確認する必要がある。井月は、今、新しい。（M生）

* 日本の心を持った“ガレ”に感動！ *

11月7日（土）の足利市民活動センター“茶論”は、ガラス工芸家でもある清水弘一さんの広範な知識と審美眼をとおして、アールヌーボー時代を代表するエミール・ガレに、参加者一同魅せられたひとときとなりました。ガレの日本人のような宿命感や輪廻感を持ち“もののあわれ”を表現した作品たちが紹介されると、参加者たちも感動のあまり“どよめき”も起こりました。いつもながらの楽しく、新しい発見に満ちた“茶論”でした。

* プラスアルファ *

石川 博右



「サラダ記念日」の俵万智の句に “ワープロの手紙に添える追伸をたとえば愛の湿度に想う” がある。ワープロやPCで書かれた手紙は今では珍しくなくなっているが、なんとなく活字だけの紙面は乾いている。そこに一行の追伸が添えられると乾いていた活字がイキイキと見える。血が通った文（もの）に変化する。一行の追伸だが、それに手紙であるが故に、送り手の心が感じられる。俵万智はそれを愛の湿度と言っているが、うまい表現だ。

「愛の湿度」は別としても、その心根はプラスアルファから発したものは確かである。年賀状も活字や写真やカットの他に、わずかな余白にそっと一行「お会いしたいものですね」などと自筆が添えてあると、ホッとするのである。

プラスアルファを持った人は一応に魅力的である。そして一応に春風のようにあたたかい。

先輩教師Sさんを思い出した。ある日、少年は万引きの現行犯で捕まる。店主は直ちに家庭と学校に知らせるが、家庭は梨のつぶて。受け持ちのS先生が取るものも取り敢えず駆けつけると、店員たちはてっきり父親だと勘違いして激しくなじった。その間、S先生は一言も弁解せず少年と並んで叱責に耐えた。その長い時間から解放され店を出た時、少年はいきなり先生を見上げて言った。「どうして先生は、父ちゃんじゃないって言わなかったん？」するとS先生は答えた。「いいじゃないか。先生は学校じゃお前の父ちゃんみたいなもんだ。」

少年の悪癖がそれ以来ぴたりと止まった。

プラスアルファの先生、貧しくて修学旅行に行けない子に自分の金をそっと立て替えた先生、弁当が作ってもらえず毎日庭で遊んでる子に愛妻弁当を分けてやった先生、等々。先生だけでなく、そういえば我々の廻りにもプラスアルファを持った人たちがいっぱいいるんだな。

* 障がい児を育てる親の会「カラフル」 *

「一人で悩んでいませんか？」

カラフルは足利市で障がいや病気を持つお子さんを育てている保護者の交流サークルです。育児をしていくうえで様々な悩みや不安があると思います。そんな悩みを相談したり情報交換しながら、ほっと息抜きできる時間を一緒に過ごしませんか？

〔活動日時〕 月1回 水曜日10時～12時

〔お問い合わせ〕 colorful.ashikaga@gmail.com 担当 清水

① インフォメーション ①

☆足利市民活動センター 2月・3月休館日のお知らせ

土曜・日曜・祝日・2月15日(月)・3月15日(月)が休館日となります。
ご利用の際はご注意ください。

☆「まちの縁側」～読書サロンへのご招待～

だれにでも心に残る一冊の本があります。童話・小説・詩集・・・等々。
その一冊の本を導きの糸として、案内人を囲んで、参加者のみなさんと一緒に、
ワイワイガヤガヤ・・・と。新しい人との出会いや物語を紡いでみませんか。
どうぞ、お気軽にご参加ください。

★2月19日(金) 14:00～16:00

*本 : 「まちづくり大変記」(中島彗雄)

*案内人 : 木村 寛 さん

★3月12日(金) 14:00～16:00

*本 : 「己に克つ～小さな自分を乗り越えるために」(高田好胤)

*案内人 : 白田 明 さん

■会場 : 足利市民活動センター

■参加費 : 無料

■お問い合わせ : 足利市民活動センター ☎44-7311

☆企画展(交流コーナー) ～2月・3月のご案内～

- *①2月 1日(月)～2月 5日(金) 絵本庵 展
- *②2月 8日(月)～2月12日(金) 子どものえがお 展
- *③2月16日(火)～2月25日(木) 全国郷土のひな人形 展
- *④3月 1日(月)～3月 5日(金) 足利リビルドの会 展
- *⑤3月 8日(月)～3月11日(木) 東日本大震災10周年 展
- *⑥3月16日(火)～3月19日(金) 足利風表紙 展
- *⑦3月22日(月)～3月25日(木) 昔の遊び 展

※展示時間・・・10:00～19:00

ただし①②④⑥の最終日は12:00まで、③⑤⑦の最終日は15:00まで

☆相談室&講座のご案内

*相談室 = 毎月2回 ※詳しくは、別紙参照

*講座 = 毎月1回 ※詳しくは、別紙参照

編集後記

世間では“テレワーク”推奨だが、実は私たちの社会を支えているのは、“テレワーク”
のできない人たち・・・電車の運転手さんや医療の最前線に立つ医療従事者やスーパー
の店員さん・・・などである。永六輔の最も好きな山頭火の句は「働きつづけた手
をあわせてやる」・・・漂泊の旅の途中で、貧しい男の死に出会い弔った一句なのであ
る。
(カサブランカ)